



一般社団法人 愛媛県中小企業診断士協会 〒790-0003 松山市三番町4-8-7 第5越智会計ビル1F
発行人：会長 上田 保 TEL：089-961-1640 URL：http://shindan-ehime.com
編集：広報委員会 E-mail：shinai@shindan-ehime.com

 目 次

◆会長挨拶（上田保）	1
◆平成29年度農商工連携促進事業を終えて（山本久美）	2
◆独立診断士の研究vol.7（上野敬治）	3
◆心のドアノブ（小島俊一）	4
◆岩手県大船渡市の魚市場及び森下水産(株)への訪問（濱田悠介）	5
◆愛媛と東京をつなぎ、故郷の発展に寄与したい（水野歩）	7
◆お知らせ（事務局）	8



会 長 挨 拶

会長 上田 保

2018年戌年が明けました。今年はどうな年かを調べますと、「前年に新たに芽生えた意味や価値がさらにグッと成長する」と出ていました。しかし、「前向きに地道な努力を重ねることが前提であり、油断すると枯れてしまう」ともありました。当協会でも、前向きに新しい目標に向かって努力することを、肝に銘じた次第です。今後とも会員皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

昨年を振り返りますと、まず「中小企業診断士の日」のイベントとして愛媛大学社会共創学部との共催で講演会とパ

ネルディスカッションを行ったことが挙げられます。中小企業診断士制度と大学での資格挑戦の意義についてアピールしましたが、アンケート調査では「中小企業診断士に挑戦したい！」との多くの声が学生の皆さんから寄せられ、手応えのある結果となりました。また、岩手県視察研修旅行では、東日本大震災にもめげず逞しく事業復興を成し遂げた森下水



産(株)や、地域を巻き込んで面的に経済復興支援をサポートしている大船渡商工会議所、ITを活用した新市場運営を行っている大船渡市魚市場の皆様から貴重なお話を頂き、見識を深めることができました。今年は高知県水産業者の視察研修を計画していますので、皆様の奮ってのご参加をお願いする次第です。

その他として、中小企業庁の「平成29年度農商工連携促進事業」、「平成29年度経営指導員向け小規模事業者支援研修(見習研修)」、松山市の「松山市民しごと創造ワンストップ支援事業(未来Jobまつやま)」、愛媛県、金融機関、愛媛県商工会連合会、TKC等からの依頼案件にも取り組んでまいりました。

今年度は、新たに愛媛県農林水産部からの受託事業やポリテクセンター愛媛の生産性向上支援訓練(事業)の研修企画競争への参加、四国税理士会愛媛県支

部連合会・TKC四国会愛媛支部との連携事業の推進等に取り組んでいくこととします。また、会員診断スキルの底上げとしての事例研究等の研修事業も計画しています。

20~40代のビジネスパーソンを対象にした日経新聞・日経HRのアンケート調査(2015年11月実施)で取得したい資格ランキングで中小企業診断士は堂々の第1位となっています。また、超難関資格の公認会計士や税理士資格であっても、その業務のほとんどが人工知能AIにより代替されるといわれているなか、中小企業診断士のAIへの代替可能性はわずか0.2%と低く、魅力ある資格と評価されています。それらの期待に応えられるよう、人間力に磨きを掛けながら質の高いアウトプットを提供できるよう切磋琢磨していこうではありませんか。



平成29年度農商工連携促進事業を終えて

山本 久美

この事業に取り組むきっかけは、平成26・27年度「地域水産業経営改善推進事業」で八幡浜漁協・三崎漁協に関わったことで、漁業協同組合の運営の在り方について関心を持ったことである。折りしも愛媛県漁業協同組合連合会による愛媛53漁業協同組合の再編記事が日経新聞に掲載されていたことも後押しをした。現在、水産業を核とした漁村地域の活性化を目指すための総合的な計画を浜ごとに策定している。この計画ではエリアを6区分し、「浜の活力再生プラン」として収入向上の取組みとコスト削減の取組みを計画し、5年後の所得目標を定めるものである。既に浜プラン策定済組合数は34組合あり、未策定組合が19組合である。さらに、「広域浜プラン」では、複数の地域(漁協)が連

携し、生産・加工の集約化、出荷・販売の統合、漁港水域の有効利用を推進する取組みを支援している。

そこで、愛媛県漁業協同組合連合会へこの事業について説明



し協力を仰いだ結果、快諾を頂き事業実施計画を作成しエントリーを行った。主な内容は、エリアを東予地区、中予地区、南予地区に分け現状の課題を抽出する中で、中小企業者とのマッチングの可能性について調査を行うものである。お互いのシーズ、ニーズを見極めて次につなげていく調査事業である。

しかし、今回の調査結果で分かったことは、各漁協の魚種の水揚げ量が少なく

小規模飲食業やイベント利用には活用できるが、定期的数量確保を必要とする流通業界では取引が不可能である。各小規模漁協が同類の魚種を取り扱い冷凍することで市場提供を検討しているが流通経路を確実に確保できていないために、冷凍焼けによる劣化等で市場に出せないなどコスト増が見受けられる。これらのことは、新聞記事に掲載された再編に結びつくと考え。報告書についても愛媛県漁業協同組合連合会へ提出し、

再編における各組合への啓蒙活動は市場環境を理解している診断士の活躍の場であると説明を行った。

また、「中小企業診断士の日」についても昨年は愛媛大学社会共創学部との連携で実施、今年では愛媛県漁業協同組合連合会及び愛媛県との連携による「中小企業診断士の日」にしたいと考えている。協会として特徴のある組織体運営を行い、愛媛県の基幹産業である農林水産業の支援が行えることを期待したい。

独立診断士の研究 vol. 7

～ISO を有効な経営ツールにするために～



上野 敬治

2015年秋にISO9001、14001の改定が行われました。改訂の理由はいろいろありますが、ISOと経営が乖離し、経営に役立つツールになっていないことがあります。ISOの審査が近づくと、審査のための書類整理などに時間を取られる会社は多くあるのではと思います。ISOのためのISOほどムダな仕事はないものです。

私はISOのコンサルを長年行っていますが、数年前から静岡県のコンサル団体と連携し、業務フロー型マニュアルの導入を支援しています。従来のマニュアルは、ISO規格要求事項に沿った形のマニュアルですが、業務フロー型マニュアルは会社の業務をいくつかにまとめ、業務毎にPDCAで整理する形のマニュアルです。マニュアルが出来上がった後にISO規格との整合性をチェックします。実際の業務に沿ったマニュアルのため、ISOを意識することなく、自然にISO活動ができるというものです。これまで数社に導入し、審査機関の審査でも問題なく認証取得できています。今後も少しでも多くの会社にご紹介し、ISOのため

のISO活動を行っている会社が無くなればと思っています。

また、そのコンサル団体と取り組んでいることがISO自己宣言です。ISOは審査機関の認証を受ける



方法と自社が自己宣言する方法があります。現在ISOを取得している会社は審査費用をかけて審査機関の認証を受けているのが殆どですが、自己宣言に転換すれば費用負担はかからないこととなります。欧米では自己宣言が主流とのことです。愛媛県内にも自己宣言でISO活動を行っている会社がありますが、取引先等との関係も全く問題なくISO取得会社と認定されています。自己宣言がもっと増えればさらに有効なISOになるのではと思っています。

今後、業務フロー型マニュアルや自己宣言を通じて、ISOが真に経営に役立つツールになることを期待しています。



心のドアノブ

小島 俊一

他人の心をこじ開けようとする方が居られます。

自分の周囲の人に何かあると

「どうして？」や「何があったの？」と自分の興味で聞き出そうとします。

善意で聞いていても、押し付けの質問です。

こうすることでは決して、人が心を開くことはありません。

心のドアノブは、内側にしか付いていませんから。

人の心を外から開くことは出来ません。

誰かが傷ついている時や悩んでいる時には、そこにそっと寄り添うことさえ出来れば人は救われます。

話を聴くことだけで相手は救われることがあります。

愛媛のパワーワード「ほーなん」を返してあげるだけで十分です。

私たち中小企業診断士が様々な業種

の中小企業の経営コンサルティングをするときに「課題の答えは自分にある」と思って取り組んでも行き詰まり、経営は改善されません。

まずは、話を丁寧に伺

いましょう。「事実」は何か？「思い込みは無いか？」を意識しながら聴くだけで、適切な「しつもん」が湧いてきます。

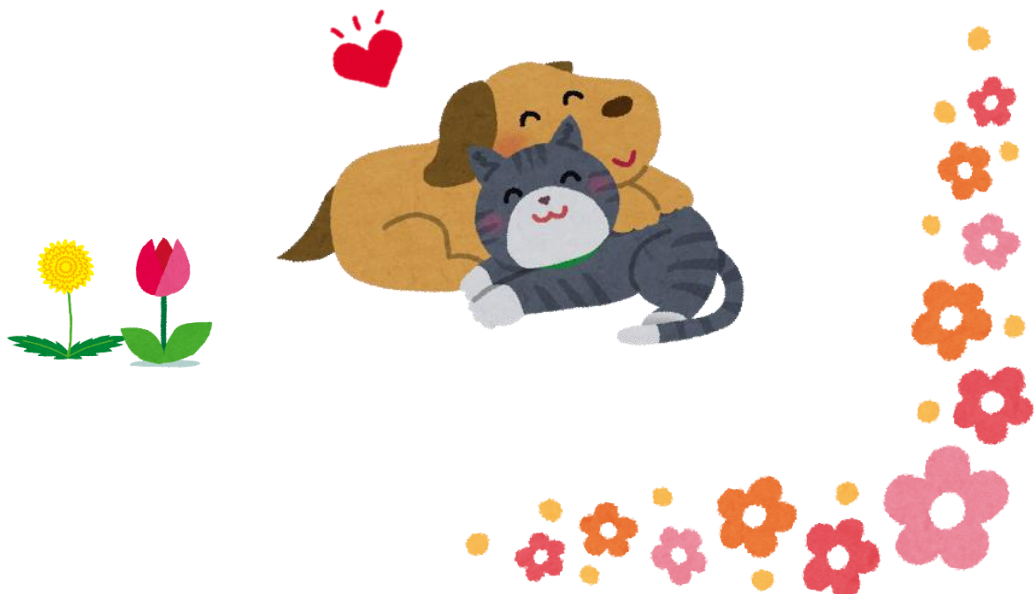
貴方の大切な人に次に会う時には、しっかりと相手を見つめて自分の「答え」は脇において丁寧に話だけを聴いてみませんか？

「ほーなん」だけで。

参考図書

ビジネスで一番大切な しつもん

著者：松田 充弘 日経 BP 社





岩手県大船渡市の魚市場及び森下水産(株)への訪問

濱田 悠介

今年度の視察研修旅行では、東日本大震災の被害から復興した企業として大船渡市魚市場及び森下水産(株)へ訪問しました。一ノ関駅からバスで大船渡市までの移動途中に陸前高田市も通過したのですが、高台の造成は進むものの建物はまばらで復興も道半ばという情景が印象に残っています。テレビカメラを通してではなく直に目の当たりにすると、湧く感慨も変わってくる思いでした。

大船渡市魚市場は平成28年2月に新しい施設での供用が開始され、日本でも有数のIT技術を活かした魚市場になっています。フォークリフトで計量されたデータが無線通信でサーバに送られたり、セリもタブレット端末を使って行われたりしていて、自分が持っている魚市場のイメージが一新されました。また、衛生・鮮度管理には特に力をいれており、エリアを分けて衛生レベルを管理したり、防鳥ネットを設けたり、荷積みまで短時間でスムーズに流れる構造にしていたり、それを実現する様々な仕組みを紹介していただきました。

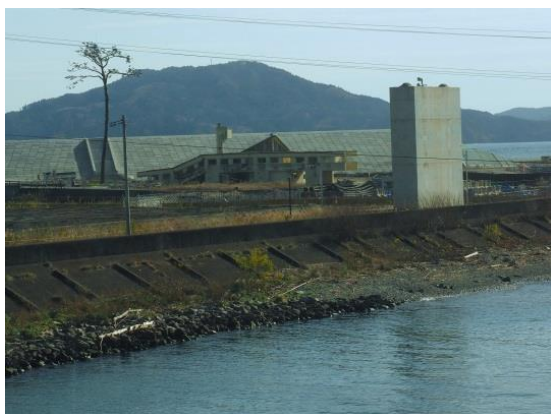
その後、森下水産(株)の工場を見学しました。主として大手コンビニ向けの焼きししゃも、フィッシュフライを生産している現場を見学させていただきました。衛生を保つための入場までの仕組みから始まり、異物混入がないか検査する機械、

大型のフリージング機械、人手が必要な工程はどんな工程か、ホワイトボードでの生産目標管理など、食品加工場の「現場の動き」を見ることができたのは貴重な体験です。



見学の後、森下社長のお話を聞かせていただいたのですが、震災の時にはどんな状況だったか、震災後の本社や工場を目の当たりにしたときの思い、一度帰国した海外研修生が復興に向け戻ってきてくれたこと、生産再開にこぎつけたものの一旦凍結してしまった販路再開への苦労など、他の情報源ではなかなか得られない「復興の実際」を知ることが出来ました。森下社長をはじめ復興をなすとげ、事業に邁進されている大船渡の皆様のおかげに感謝いたします。

東北に旅行するのは初めてでしたので、前日の平泉観光も含めて新たな景色や人と出会う大変良い機会をいただきました。視察団を受け入れてくださった森下水産(株)及び大船渡商工会議所の皆様、それから旅行の準備にご尽力いただいた協会事務局の方々にあらためて感謝申し上げます。



■奇跡の一本松

岩手県陸前高田市気仙沼町の高田松原跡地に立つ松の木。
2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震による津波の直撃を受け、ほとんどの松の木がなぎ倒されて壊滅した中で、この木は津波に耐えて残ったことから、震災からの復興への希望を象徴するものとしてとらえられるようになった。



■大船渡市

大船渡市（おおふなとし）は岩手県南部の太平洋沿岸地域に所在する。東北地方太平洋沖地震発生時には、大船渡市の大船渡町と猪川町で震度6弱、盛町で震度5弱を観測した。また、地震による津波の被害も大きかった。



大船渡市魚市場



記念写真



愛媛と東京をつなぎ、故郷の発展に寄与したい

水野 歩

ご覧いただいている皆様はじめまして。水野 歩（みずのあゆむ）と申します。平成28年4月1日に診断士登録を致しまして、現在は東京にある人材紹介、ヘッドハンティングを行う会社に勤務しております。

元々出身が、愛媛県宇和島市の片隅にある地域で高校卒業まで愛媛県で過ごしました。大学から神戸に移り住み、大学卒業後に人材関連事業を営むエン・ジャパン株式会社に入社し、大阪勤務→最年少で神戸の支社長→最年少で海外支社の副社長（北京）→帰国後、東京本社で営業部長を務めておりました。

その後、リーマンショックなど、人材業界が大きく業績が落ち込む時期を経験した際に、求人広告ではなく、経営支援になる情報を提供する新設部署に移りました。その際に、代表取締役や取締役とお話しをする機会が急激に増えたこと、加えて私の実家で以前、家業を廃業した経験が重なり、経営について学びたく、中小企業診断士の勉強を始めたきっかけとなりました。

現在もエン・ジャパングループに在籍しており、主に幹部クラスの採用支援からその部門全体のスタッフの採用支援を行う動き、更には、バイアウト



のためや事業承継のタイミングでの経営者採用の支援を行っております。中小企業診断士と事業承継士の資格を本業でも活かせるよう日々精進して参ります。愛媛での会合などにも時々参加させていただきたく、また、もっと愛媛に貢献したいと強く思っております。東京に普段住んでいるからこそ出来るご支援もあると信じて、経験を積んで参ります。特に中途採用関連、営業部門や営業マネージャー、管理職育成、事業承継関連などでお力になれることがございましたら、お気軽にお声がけいただけますと幸いです。今後とも宜しく願いいたします。



お知らせ

■平成30年度（前半）の行事予定

日 程	行 事 内 容
5月11日（金）	理事会 税理士法人越智会計事務所
6月13日（水）	定時総会 東京第一ホテル松山
8月 4日（土）	理論政策更新研修 リジェール松山

編集後記

「しんあい 2018 年春号」発行にあたり、大変お忙しい中ご執筆いただきました皆様、誠にありがとうございます。また、協会事務局、広報委員、発行に関わっていただいた皆様に、心より御礼申し上げます。

今後とも、各分野でご活躍される方々に執筆していただき、読みやすいデザインや構成にしていきたいと思います。

今年の初めは、雪も多く寒かったですが、徐々に暖かくなり春が近づいて参りました。寒暖の差が激しい日々ですので、お身体にはくれぐれもご自愛ください。

最後に、いただいた原稿につきましては、できるだけ原文通りに掲載したいと思っておりますが、紙面や構成の都合で編集させていただいた場合もございます。ご了承のほど、お願い申し上げます。

（広報委員長 西田 元信）

